

Wesley Hall News

ウェスレー・ホール・ニュース

November, 2025 No.149



闇の中を歩んでいた民は
大なる光を見た。

イザヤ書第9章1節

相模原キャンパス

あなたの ところにも

大学宗教主任 和寺 悠佳



クリスマスに、イエス・キリストはマリアからお生まれになりました。救い主を産むという務めを与えられたのですから、マリアはきっと特別な人だったと思われるでしょう。聖書はマリアについて、ナザレに住む、「ダビデ家のヨセフと言う人のいいなずけであるおとめ」(27節)と記しています。いいなずけであるおとめとは、婚約中である未婚の女性ということです。この時代、女性が婚約することは普通であり、婚約中ということはまだ正式に結婚していないのですから未婚であるのも当然でした。マリアについて、聖書はこれ以上のことを記していません。容姿や能力が優れていたと記されている女性も聖書には登場しますが、マリアはそんな女性ではありませんでした。もし、マリアが美人だったり、優秀だったりしたら、聖書はそう記すはずですが、そうは書かれていません。「ヨセフのいいなずけであるおとめ」とは、マリアはごく普通の女性、どこにでもいるような特に目立たない女性だったということです。そんな普通の人が、救い主イエス・キリストを身ごもり、イエス・キリストを産むという務めを与えられました。

マリアは神様が自分に与えてくださった務めに驚き、そんなことはあり得ないと一度は抵抗しましたが、神様にできないことは何一つないと知り、「お言葉どおり、この身になりますように」(38節)と神様の思いを受け入れました。神様の思いに従うことが、自分がすべきことであると気づいたのです。



ルカによる福音書 第1章26, 27

天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフと言う人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。

神様は私たち一人ひとりを創造されました。あなたが必要だと、命を与えてくださいました。そして、その一人ひとりに、神様の思いを伝えて、それを受けてほしいと願っております。どんなに目立たない、普通の人にしか見えなくても、その一人ひとりに対して神様は呼びかけられます。ごく普通の女性だったマリアが、救い主イエス・キリストを身ごもるという務めを与えられてそれを受けたように、たとえ自分は平凡なつまらない人間でしかないと思っていたとしても、そのあなたのことを神様はご覧になっています。そして、あなたに神様の思いを受け入れてほしいと語り掛けてくださいます。

神様の思いとは私たちを救うことです。あなたを救いたい、という神様の思いを私たちは知らされました。マリアは神様の思いを受け入れて、イエス・キリストを身ごもりました。自分の中に、救い主を受け入れました。神様は言われます、「あなたにも救い主イエス・キリストを受け入れてほしい」と。

クリスマス——救い主は、あなたのところにも来てくださいます。どんなに普通で平凡な人のところにも、救い主は来てくださいます。マリアの胎内にイエス・キリストが来られたように、あなたの中にも救い主は来られます。イエス・キリストは、あなたの中に来てくださる。イエス・キリストはそれほど近くに来てくださった救い主です。救い主イエス・キリストを自分の内にお迎えしましょう。



アドベントクランツのろうそく1つひとつに
意味があることを知っていますか？

1週目は「希望」、2週目は「平和」、
3週目は「喜び」、そして4週目は「愛」。

キャンドルに込められた希望・平和・喜び・
愛の光は、クリスマスを待つ時間の輪。
各部の生徒たちがそのテーマに向き合い、
言葉を灯すように文章を寄せてくれました。

大切な光

中部部教諭 ライト 謙

希望とは、ただ「こうだったらいいの
に」と思うことではなく、辛いときにも
心を支えてくれる力です。聖書にはこう
書かれています。「主を待ち望む者

は新たな力を得 驚のように翼を広げて舞い上がる。」(イザヤ40:31)これは、
神さまを信じて待つ人には、新しい力が与えられるという意味です。学校や家
族、友だち関係で思い通りにならないことや辛い時があっても、希望を持つこ
とで前向きに進む勇気が湧きます。希望は、ただの願いではなく、未来のこと
を信じる心でもあり、神さまがともにいてくれるという安心感でもあります。だ
から、どんなときでも希望を胸に歩むことで、私たちはもう一度立ち上がり前

に進むことができます。そして、希望を失わず
に生きることが、周りの人にやさしさや勇気を
与えることにも繋がります。希望は、神さまと
ともに生きる人の心の中にある大切な光で
す。希望を信じ、毎日を一歩ずつ進むことが、
私たちの人生を明るく照らす道しるべとなるで
しょう。



第1週

希望



希望は輝き続ける

教育人間科学部 4年 荻原 舞生

私の大学生活ではショックな出来事がありました。2年連続して伯父・伯母・祖父の3人が病気で天に召されたことです。深い悲しみと喪失を伴いました。しかし1つ希望だったことがあります。それは3人ともクリスチャンであることでした。クリスチャンはイエス様が罪の身代わりとなって永遠の命を与えてくださったことを信じています。つまり死にある希望とは、天国で再会できるということです。その希望をもたらしなのがクリスマスです。東方の博士が星をたよりに御子を探したことが聖書にかかれています。そのときの星の輝きは、真っ暗な夜空を眩いほどに照らしていたのではないかと想像します。また詩編34編19節には「**主は心の打ち砕かれた者に寄り添い 霊の砕かれた者を救い出す。**」とあります。御子をご降誕しなければ、私たちに救いはありません。

身近な人が亡くなることは真っ暗な夜空のような気持ちになります。しかしその夜空を照らすことができるのは神様だけです。憐れみ深い主が遣わされたひとり子のご降誕を心から感謝し希望の慰めを待ち望みたいと思います。



CHRISTMAS

クリスマス 特集

4つの光が灯るとき

平和の灯を 見つめて

初等部教諭 吉野 かおり

平和って何だろう。争いが
ないこと？誰もが幸せに暮らせる
こと？

御聖誕の地で80年近く続く重大な人権侵害を知る中で出た一つの答えは、「誰にとっても選択肢があること」。学ぶ、働く、遊ぶ、またはそれをしない。その一つひとつを、自分の意志で選べること。誰かに奪われず、否定されず、恐れずに生きられること。偏見や無知から解き放たれ、どんな選択肢があるのか知ることができること。つまり平和は、ある/ない ものでなく、御言葉のとおり「造るもの」なのだと思う。

昨年発足した「わくわく作ろう！クリスマスクラブ」では、作る⇒パザー⇒献金⇒つながる を目標に活動している。献金先の人々（障害者、避難民・難民、パレスチナの人たち）に思いを馳せながら、また次の作品を作っていく。そんな小さな営みの中に、「平和を造る」ための小さな光を、主が灯してくださいますように。

救い主を待ち望むアドヴェント。平和を祈り求め、平和を造るための器として用いられますようにと、祈り求めながら過ごしたい。

「平和を造る人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイ5:9)



第2週

平和



愛の光

高等部3年 岩田 優衣



私は毎年クリスマスが近づくと、アドベントの始まりを告げる点火祭に心が躍ります。私が初めて点火祭を見たのは中等部3年生の時に、その時はコロナウイルスの影響もあり聖歌隊として歌うことは叶いませんでした。しかし、初めて目の前で初等部・高等部・大学聖歌隊が奏でる美しいクリスマスの讃美歌のハーモニーを聴き、感銘を受けました。聖歌隊として点火祭で歌いたい。強い想いで高等部でも聖歌隊に入りました。そして待ちに待った2023年の点火祭。あの時の感動は今でも色褪せることなく鮮明に覚えています。暗闇の中、ツリーに灯りがともされ、イエス様の降誕を待ち望みながらキャンドルを掲げたあの美しさ。この光景は単に美しいだけでなく、神様が暗闇に包まれた世界に平和という名の希望の光を灯してくださっているのだと感じます。人々が争い、悲しみが絶えないこの時代だからこそ、私達一人ひとりが心に温かな平和の火を灯し、その希望の光で周りの人を照らす。この希望の光が遠く離れた悲しみをも照らし、平和がもたらされる事を祈っています。



高等部部长・教諭 渡辺 健

Rejoice always! いつも喜んでいなさい。

.....

いつも喜んでいなさい。(1テサロニケ5:16)

私は、いつもこの御言葉を胸に、高等部
が喜びあふれる学校になることを祈って
います。

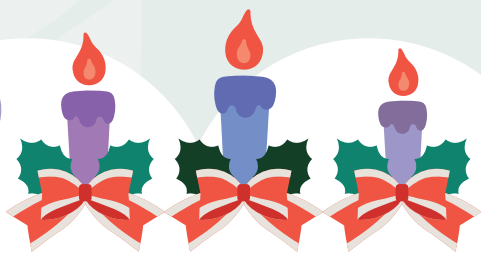
アドベントクランツの3本目のろうそくは「喜び」を象徴しています。私は「喜び」は単なる感情ではなく、神様が私たちに与えてくださった創造の恵みの一部だと考えています。医学的にも、喜びや笑いはストレスを軽減し、免疫力を高め、心身の健康に良い影響を与えることが知られています。神様の創造の業のすばらしさにはいつも感心させられますが、この神様の御業は、私たちが喜びの中で生きることを望んでいる証のように思います。

しかし、私たちの喜びの根源は、環境や状況に左右されるものではありません。本当の喜びは、イエス様がこの世に来てくださり、私たちの罪を赦すために十字架にかかってくださったという福音にあると信じるからです。この救いの知らせこそが、私たちの喜びの源泉なのです。アドベントの3本目のろうそくを灯すときには、私たちはこの深い喜びを思い起こし、感謝の心で主を待ち望みたいものです。



第3週

喜び



中部3年 堀井 飛那汰

喜びの輪

クリスマスまでの4週間を彩るアドベントクランツ。第3主日に灯ろうそく「神様がもたらす喜びを分かち合う」ということについて僕は振り返る。

剣道部の僕は、家族、友人、先生、そして剣道部の仲間と恩師に支えられている。そんな僕の喜びは、優勝した瞬間や、代表に選ばれた事だけではない。汗と笑顔を分かち合い剣を交える仲間がいること。一振り一振りを大事に指導して下さる恩師に出会えたこと。そして、打ち込まれて痛いであろうに、何度でも練習相手となってくれる母の愛が側にあるということ。こんなにも多くに恵まれているということは、本当に喜ぶべきことなのだ。

ろうそくを灯すとき、このような環境を与えてくださった神様に感謝し、僕の喜びは、その人たちに贈りたい。一人では決して作れない、みんなの支えと喜びの輪。分かち合った小さな喜びは、やがて大きな光となり、誰かの心を照らすだろう。そして、その光がまた別の誰かの喜びにつながってほしい。





神は、愛です。

幼稚園教諭 河瀬 ゆり子



「愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれた者であり、神を知っているからです。

愛さない者は神を知りません。神は愛だからです。

神は独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、私たちが生きようになるためです。」(Iヨハネ 4:7～9)

待降節にドイツでは、幼子イエスさまが小舟に乗ってやってくるというたとえを用いることもあるそうです。静かにそっと私の元に小舟が近づいていることに気づくことができますように。私たちの心の中にその小舟をとめる岸辺を準備しましょう。欠けたところの多い、人の痛みには鈍感で、自分の痛みには敏感なこの私の中に。この悲しみの多い世界のただ中に。天使が告げた「すべての民に与えられる大きな喜び」である御子イエス、私たちのために神さまが贈ってくださった幼子イエスのお生まれをご一緒にお祝いいたしましょう。私たちの思いと言葉、行いが、イエスさまに喜んでいただけますように。いつも「愛すること」を選べますように。

第4週

愛



初等部6年 犬飼 誠祈

おどろくほどの大きな愛

神様はこの世界をつくられ、ぼく達一人ひとりに命を与えてくださいました。そこにはとてもすごい大きな大きな愛があると思います。でもそれだけでなく、人間の自分勝手にごうまんな罪をあがなうために、神様はご自分のひとり子であるイエス様を地上に送ってくださいました。クリスマスには、神様のおどろくほどの大きな愛があふれています。

ぼくはそのことを忘れないために、五年生のクリスマス礼拝でバプテスマを受けました。信仰を与えてくださったのも神様の愛によるものだと思います。神様からいただいているたくさんの愛をむだにすることなく、7代目として受け取った信仰のバトンをしっかりとにぎって次の世代にわたせるように、恵みに感謝していきたいと思います。

アドベントクランツのろうそくは、ろうがとけて火をともし続けます。それはまるで、ご自分の身体をけずってこの世を照らされたイエス様のようにです。世界中の人が神様の深い愛にふれて笑顔で過ごすことができるようにお祈りします。





見守られ、愛されて

幼稚園保護者 谷口 清二郎

今では遠い記憶となった幼稚園時代ですが、その中でも心に残っている場面があります。グラスに絵を描いてステンドグラスのような作品

を作りました。私は星を描きたくて何度も挑戦しましたが、描き方が分からず困っていました。すると先生が隣にいらして私の手に手を添え、一緒に星を完成させてくださいました。光に透かすと、その星はキラキラと輝いて見えました。その光景と嬉しかったことを、今でもよく覚えています。

その時感じた安心感を、今、長女も同じように感じているのではないかと思います。長男もそうでしたが、幼児という時期の自由さや純粋さは特別で、幼稚園ではそれらを大切に、一人ひとりの個性に寄り添ってくださっています。のびのびと生活する子どもたちを見ると、私もいつも温かく見守られ、手を差し伸べていただいていたのだと改めて気づきます。

この温かさは、先生方だけでなく、学年を超えた仲間たち、そして、保護者と学院に集う多くの方々が一体となり、子どもたちを見守り、育んでくださっているからこそ生まれるものです。あの日、先生に手を添えていただいた私が、今、我が子も同じように見守られている姿を見ることができるのは、何よりの喜びです。

クリスマスは、神様が、イエス様を世にお遣わしになるほどに、私たちを見守り愛してくださっているということを教えてくれます。大きな愛の中で、今年も子どもたちと共にクリスマスを迎えられることに、心から感謝しています。



皆さんはクリスマスをごどのように迎えますか？

青山学院では、幼稚園から大学まで、様々なクリスマス行事が行われています。

クリスマスツリーのきらめき、響きわたる讃美歌、仲間と過ごす特別な時間。

青学のクリスマスにまつわる思い出や喜びを集めました。

神様からのお役目

初等部6年 三田 真央

昨年のページェントで念願のマリア役を演じました。練習では、先生方からたくさんのアドバイスをいただき、家でも何度も練習しました。最初は言われた通りに動くだけで精一杯でしたが、毎日続けるうちに、ガブリエルの言葉を聞いて、マリア様がどのようにおどろいて、とまどって、そして受け入れていくのか、マリア様が神様のお言葉を受け入れる気持ちを、だんだんと自分なりに感じられるようになりました。

「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」(ヨハネ 3:16)という聖句を胸に、本番では、これまでの練習を信じて、マリア様のお気持ちになって演じることができました。婚約者ヨセフの故郷ベツレヘムに向かう「帰郷」の場面では、疲れと不安を、降誕の場面では、ほっとして、静かな喜びを感じながら演じました。

約一時間、舞台上に立ち続けるのは大変だったけれど、マリア様はもっと大変だったはずです。どんな困難があっても、神様から与えられたお役目を最後まで果たさなければならぬという責任感を深く感じました。この貴重な経験は、私に大きな感動と感謝の気持ちを与えてくれました。





讃美歌の力

中部部3年 松本 梨咲子

皆さん、クリスマスおめでとうございます。突然ですが、皆さんにとってクリスマスとはどのような日ですか？プレゼントがもらえる日、美味しい料理を食べる日、大切な人と過ごす日など、人によって様々でしょう。

私にとってクリスマスは、凍える寒さの中で響くパイプオルガンやハンドベルの音色、讃美歌の歌声が、心を包み温めてくれる素敵な日です。特に中部部生全員が集う中部部のクリスマス礼拝では、その雰囲気をもっと感じられるでしょう。

私にとってクリスマスは、凍える寒さの中で響くパイプオルガンやハンドベルの音色、讃美歌の歌声が、心を包み温めてくれる素敵な日です。特に中部部生全員が集う中部部のクリスマス礼拝では、その雰囲気をもっと感じられるでしょう。

そこで皆さんにお願いがあります。今回のクリスマス礼拝で歌う讃美歌の中から、お気に入りの歌を見つけて、声を出して歌ってみてください。人前で歌うことは少し恥ずかしいかもしれませんが、しかし700人以上の歌声が重なったとき、講堂には一体感が生まれ、クリスマスの本当の喜びが見いだせるはずです。

イエス・キリストの誕生から2000年以上の時を経た今も、その出来事は讃美歌を通して私たちの中に生きています。どうかこのひとときが皆さんの心に静かな光と温もりを届けてくれますように。





クリスマスの思い出

.....
高等部 1 年 岸部 未来歩

私が一番心に残っているクリスマス行事は、中等部でのクリスマス礼拝です。中等部のクリスマス礼拝では、イエス様の誕生についての劇を行います。始めに大天使ガブリエルが登場し、マリア、ヨセフ、博士たちが登場します。そして聖書朗読とともにハンドベル部の演奏や、聖歌隊の歌声が青山学院講堂内に響き渡り、みんなで神様を賛美します。この劇の中で私が特に印象に残っているシーンは前方に座っている生徒たちが作る光の十字架のシーンです。講堂内が暗いのもあり静かに浮かび上がってくる光の十字架はとても迫力があります。クリスマス礼拝は静かで落ち着いた雰囲気の中、神様を賛美することができます。また中等部全体で作り上げる特別な礼拝でもあります。キャストの生徒はもちろん、それを指導して下さる先生やハンドベル部、聖歌隊、そして讃美歌を歌う全生徒、みんなで作り上げる礼拝です。私も献金係としてこの礼拝に参加しましたが、本当にいろいろな人に支えられてこの礼拝を作り上げることができました。そのことに感謝しながら過ごしていきたいです。



栄光と祝福が見える時

経営学部 1年 西野 優花



青山学院での13年間の中で特に思い出深いクリスマス行事は点火祭だ。点火祭は、まさに「地の塩、世の光」という聖句を体現していると思う。幼稚園から大学まで、異なる日常を過ごしている人々が交わり、共に神様を見上げて一つになる。この特別な時間こそが、青山学院を好きな理由の一つであり「あ、ここに居ていいんだ」と思える時だ。

初めて参加した初等部1年生の時、音と光に包まれる賛美に圧倒された。その一員に私もなりたいたいと思い、それ以来ハンドベルや吹奏楽で多くの奉仕に参加してきた。特に昨年は聖歌隊の背中を押すような歌声、光に照らされ輝くハンドベルを誇らしく演奏する妹の姿、ひたむきに演奏している初等部のパートナーさんの音色を感じながら、一緒に演奏することができ、恵みを感じた。そして、幼い頃に圧倒された光と音は神様の栄光と祝福だったのだと気が付いた。高等部生活の中で、キリスト教の知識は増えていたが、それだけでなく純粋に神様と向き合い、クリスマスの喜びを感じる幸せを再確認することができた。今年からは参加者として集う立場となるが、この先どんな困難があっても、共に歩んでくださる神様の大きな存在に支えられて歩んでいきたい。

※青山学院初等部の「パートナー」とは、1年生と6年生がペアを組み、1年間を通して一緒に過ごす制度のこと。昼食や遊びの時間を共にしながら、上級生が下級生を支える関係を築いている。

MERRY CHRISTMAS

クリスマス行事紹介

幼稚園から大学まで、
青山学院では様々なクリスマス行事が行われます。
どなたでもご参加いただけるものもありますので、どうぞお越しください。

幼稚園

※ アドヴェント礼拝Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

毎週金曜日、ろうそくに灯りを一本ずつ灯しながら、全学年の園児・保護者で礼拝をまもり、保育者が時間をかけて準備をしたお話に耳を傾け祈りを合わせます。

※ クリスマス礼拝

年長児が中心となって降誕劇を礼拝の中でささげます。礼拝後の
お家の方とのプレゼント交換の時もまた嬉しい恵みの時です。

※ 保護者会クリスマス

保護者会が中心となってまもるクリスマス礼拝です。保護者有志の
聖歌隊のメンバーにはお父様の姿も増えてきました。



初等部

※ クリスマスページェント

イエス様の誕生をお祝いする礼拝で、ページェント形式で行います。

どなたでもお越しいただけます

※ アドヴェントコンサート 2025/11/28(金) 米山記念礼拝堂

初等部米山記念礼拝堂に設置されているオルガンの音色を多くの方々に味わっていただく
ために、20年以上にわたって行われているコンサートです。



中等部

※ クリスマス礼拝

生徒参加によるページェント形式の
クリスマス礼拝を行います。



高等部

※ クリスマス礼拝

第1部では外部講師の先生をお招きして礼拝を守り、
第2部は隔年でゲストや生徒によるパフォーマンスが
行われます。

どなたでもお越しいただけます

※ クリスマス合同コンサート

2025/12/20(土) PS講堂

高等部のオルガン部・聖歌隊・ハンドベル部が
合同でクリスマスを祝うコンサートを行います。

💡 詳しくは各部ホームページをご覧ください。

クリスマス行事紹介

大学

どなたでもお越しいただけます

※ 大学ゴスペルクワイア クリスマスコンサート

2025/12/6 (土) ガウチャー礼拝堂

クリスマスの真の喜び、神様の栄光への感謝と祈りをゴスペル音楽にのせてお伝えします。

どなたでもお越しいただけます

※ 聖歌隊クリスマス奉唱会

2025/12/13 (土) ガウチャー礼拝堂

讃美歌や聖書朗読、チャプレンのメッセージを通して、主の降誕とともに喜びます。



©Studio LASP

どなたでもお越しいただけます

※ 青山キャンパス クリスマス礼拝

2025/12/16 (火) ガウチャー礼拝堂

キャンドルの灯るチャペルで、聖歌隊・ゴスペルクワイア・ハンドベルクワイアの奉唱とともに、主の降誕を祝います。

どなたでもお越しいただけます

※ 相模原キャンパス クリスマス礼拝

2025/12/18 (木) ウェスレー・チャペル

キャンドルの灯るチャペルで、聖歌隊・ハンドベルクワイアの奉唱とともに、主の降誕を祝います。



どなたでもお越しいただけます

※ ハンドベル・クワイア・チャペル・コンサート

2025/12/20 (土) ガウチャー礼拝堂

クリスマスの出来事を思いながら、平和と希望を願い、祈りを込めて演奏します。

学院

どなたでもお越しいただけます

※ 点火祭

2025/11/28 (金) 青山キャンパス：ガウチャー礼拝堂前
相模原キャンパス：ウェスレー・チャペル前

アドベントに先立ち、幼稚園から大学院までの全学院が、心を合わせて主の降誕を喜び祝います。



💡 大学・学院行事の詳細につきましては、宗教センターホームページをご覧ください。

編集後記

本号のクリスマス特集「4つの光が灯るとき」は、幼稚園から大学までの声を通して、希望・愛・喜び・平和がそれぞれの生活の場でどのように輝くかを伝えてくれます。点火祭やページェント、聖歌隊・ハンドベルの奉唱、そして各キャンパスの礼拝案内も掲載しました。暗さに目を奪われがちな時代ですが、神様が私たちに近づいてくださるクリスマスの出来事を、共に覚えたいと願います。執筆者・関係者の皆さまに感謝を込めて。どうぞ礼拝やコンサートに足をお運びください。お一人お一人の歩みに、主の慰めと光が豊かにありますように。

巻頭メッセージでルカ1:26-27から和寺先生は「あなたのところにも」と題して、神が平凡に見える私たちのうちに働かれる希望を示します。幼児から高校生、大学生、保護者、教員の証しが相互に呼応し、四本のろうそくの物語が一つの賛歌となりました。『地の塩、世の光』の召しにもう一度立ち返り、隣人の痛みに寄り添う小さな実践を始めたいという思いになりました。学院関係者のみなさま、お一人お一人の上にクリスマスの光がありますように祝福をお祈りしています。

大学宗教主任・学院宣教師 シュー土戸 ポール

Wesley Hall News 第149号

2025年11月25日発行

発行 青山学院宗教センター
学院宗教部長 伊藤 悟
編集 青山学院 Wesley Hall News 編集委員会
〒150-8366
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL 03-3409-6537 FAX 03-3409-8865
デザイン 株式会社パットンファイヴ
印刷 株式会社スバルグラフィック
URL <https://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>
MAIL agcac@aoyamagakuin.jp みなさんの感想をお聞かせください

青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

(マタイによる福音書 第5章 13-16 節より)